

「第2次中期目標」

盛岡大学・盛岡大学短期大学部学長

－ これからの時代を生き抜く知の体力を育成する大学へ －

令和の時代に入り、新しい世の中の到来が期待されています。高等教育機関である大学は、新しい局面を迎え、18歳人口の減少に伴う定員充足の問題をはじめとして、次々と大きな課題に直面していくことが予想されます。一方、大学で学ぶ学生には、これからの時代を生き抜く知の力を身につけることによって、社会に貢献することが求められてきています。

最初に、認識として共有しておきたいことは、これから10年間の東北エリアと岩手県の人口動態です。2019年度を100としてみた場合、18歳人口は徐々に下降して2030年度には、東北エリアで78,2%、岩手県で77,6%にまで減少します。これは動かしようのない数字です(別添資料 参照)。さらに詳しく見てみると、5年後の2024年度には、東北エリアで84,3%、岩手県では83,7%、と大きく落ち込み、今後10年間の推移の中で大きなターニングポイントになる年度であることが分かります。5年後に間違いなく押し寄せる大きな波に対して、現状のまま手をこまねいていいとは誰も思わないはずで、大学が置かれた厳しい状況を、どのようにして乗り越えていくか、その方策を教員職員が協働して見出していかなければなりません。改革の手を緩めることは、停滞を意味します。共通の目標に向かって準備を整える部署ごとの目標・計画が必要とされます。

「第1次中期目標。計画」の総括および「第2期認証評価」後の課題を踏まえて、5か年を目安としたものを「第2次中期目標」とするときに、大前提となるのは、本学の経営の安定(入学定員の確保)であることは言うまでもありません。入学者の安定的確保のための最重要課題は、

第一に、地域における本学の存在価値(他との差異性、特色)を明確化し、さらに伸ばさせること、

第二に、それを担う学生の質(社会からの評価)を向上させること、この二点にあると思います。

今、大学教育には厳しい視線が注がれています。それを謙虚に受け止め、地域における本学ならではの価値を再確認し、それを「強み」として伸ばしていかなければなりません。建学の精神に則った学士課程教育を一層充実させて、社会の変化に対応できる強い学生を世に送り出すことが、本学の使命だと考えます。

全国の大学で、社会情勢の変化とともに学生の質が変化してきていることは周知のところですが、本学も例外ではありません。少子化の加速と学生の質の変化は、中教審が平成30年11月に公表した「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」の中に、「教育の質に対する懸念」として示されています。それが冒頭に言及した「学校教育法」や「私立学校法」の改正につながっています。

「教育の質保証」は、言ってみれば「学生の質の保証」ということです。社会からの本学に対する評価は、本学の教育の質そのものではなく、育成した学生の質によって決まります。今日、学修評価の指標が社会からの評価であるとするれば、本学の役割は学生の学修成果を高めることを重視することになります。それを、これから5年間の「第2次中期目標」の柱の一つとして置きたいと思います。入学定員の確保を前提として、Ⅰ～Ⅲの3つの大きな目標と6つの重点項目、その下に28の課題を設定しました。小規模大学である本学の特色を明確にし、それを生かして、地域社会に必要とされる人間、それに応えられる人材を育てていくために、教職員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<目標>

- Ⅰ 地域における本学の特長の明確化と伸長
- Ⅱ 学修者本位の教育の充実
- Ⅲ 組織的な学生支援の確立

<具体的な6つの重点項目と28の課題>

- 1、[学の精神に基づく人間育成力]
 - ア、DP・CP・APの見直し
 - イ、キリスト教教育の検討
 - ウ、高大接続改革への取り組み

- 2、[定員充足力]
 - ア、学部・学科の特長の明確化
 - イ、入学者確保の戦略
 - ウ、定員の適正化の検討

- 3、[教育改革力]
 - ア、初年次教育の改善
 - イ、教育課程の見直し(DP・CP・APとの連結)
 - ウ、主体的学修への転換
 - エ、学修成果の把握・可視化
 - オ、学修成果の向上(教育の質保証)

- 4、[学修支援力]
 - ア、学修支援体制の整備
 - イ、学修環境の整備
 - ウ、学生生活の安定のための支援
 - エ、キャリア支援
 - オ、学生の意見・要望への対応

5、[組織マネジメント力]

- ア、教学マネジメントの機能性の検証
- イ、FD・SDの効果的な取り組み
- ウ、自己点検評価のサイクル・報告書の刊行
- エ、データ資料の管理と公開
- オ、研究活動の推進
- カ、第3回認証評価受審(令和4年予定)にむけて
- キ、附属幼稚園との連携

6、[地域貢献と情報発信力]

- ア、広報活動の充実
- イ、産・官との連携
- ウ、国際交流の充実
- エ、地域への知的活動と施設開放等の充実
- オ、生涯学修の支援